

第10回御所市学校規模適正化推進会議

議事要旨

日 時 平成27年4月27日（月） 19時00分～21時00分
場 所 市役所新館3階 会議室B
出席者 委 員：田仲会長、辻内委員、山本委員、有家委員、木下委員、岸田委員、
齋藤委員、田仲委員、津田委員、井上委員、川田委員、向手委員、
細川委員、北谷委員、野阪委員
事務局：安井、安川、高田、高橋、森田

内 容

開会

○田仲会長が挨拶を行った。

教育長挨拶

○柘田教育長が挨拶を行った。

確認事項

○第7回、第8回御所市学校規模適正化推進会議議事録について
議事録の確認を行い、承認された。

○第7回、第8回御所市学校規模適正化推進会議議事要旨について
議事要旨の確認を行い、承認された。

報告事項

○第5回、第6回御所市学校規模適正化推進会議議事要旨の修正について
事務局から、先の会議で意見のあった議事要旨の修正を報告した。

○シンポジウムについて

「みんなで考える少子化時代の小・中学校 講演&クロストーク アンケート結果」
に基づき、事務局が報告を行った。委員からは次のような意見が出された。

- ・参加者に若い人が少ない。実際に子育てしている人に来てもらわないといけない。
- ・就学前教育の指摘があった。親はそこまで考えており、前向きだ。学校の統廃合だけではない。
- ・学校規模適正化を知らない人にどう広めていくかだ。
- ・中学校がなくなると聞いて転校した子がいた。うまく進めていかないと御所市の人口がどんどん減っていく。

- ・学校規模適正化だけが先にいかないよう、行政全体、御所市全体で取り組まないといけない。
- ・すべての行政各課が関係する内容だ。部課長が全部集まったの議論も必要だ。

議事

○スケジュール案について

事務局から平成27年度推進会議スケジュール案に沿って説明した後、協議を行った。主な意見は次のとおり。

- ・保護者、教職員の説明は、意見を聞くのか、目的がはっきりしない。
- ・魅力ある学校づくりの検討は、学校現場と保護者との連携が必要だが、いつ始めるのか。
- ・地域住民への説明会が必要だ。保護者、教職員と違い、地域では話が進まない。
- ・推進会議でどこまで検討するのか。ここは適正規模について話し合う場だ。
- ・教育委員会、総合教育会議との連携はどうか。

○市民理解の促進策について

【学校規模適正化の推進ビジョン案】

事務局からビジョン案を説明したところ、委員から修正意見があり、再検討することになった。

【平成27年度取り組み案】

事務局から説明を行った。委員から様々な意見が出され、それらを参考にして進めていくこととなった。主な意見は次のとおり。

- ①広報周知・意見募集
 - ・推進会議で諮るべき内容か。
- ②保護者、教職員向けの説明会
 - ・会を開いて意見を集約するのか。説明会の目的はどうか。
 - ・説明会はPTAでも一律にいかない。同じスタイルは難しい。現場単位で相談してもらいたい。
- ③住民向け講演会
 - ・具体的な話が出たときにすべきだ。小規模な単位の方が入りやすい。学校単位、校区でするのが良い。
 - ・アザレアホールで住民説明会をやっても定員があるので参加者が少なくなる。
 - ・学校を大きく変えていくのなら、多くの住民の声を聞いていくべき。
- ④子ども交流事業
 - ・学校の先生と話をすれば良い。夏休み中にしたら良いと思う。

その他

○専門委員会の設置について

魅力ある学校づくりを協議する専門委員会の設置について、委員の意見協議が行われた。主な意見は次のとおり。

- ・ 専門委員会は校園長会も含めてどう思っているか。そこと連携しながら進めるべきだ。推進会議と専門委員会の違いは何か。
- ・ 魅力ある学校づくりの協議は専門委員会でやるべきだ。生の意見を吸い上げる。
- ・ 構成は、校長（経験者）、教員、保護者、学校以外の目線も大事。現場に議論の軸足を移していく。
- ・ ゆくゆく担っていく教員の意見を吸い上げる。早い段階で設置すべきだ。
- ・ 魅力ある学校の主体は教員だ。推進会議が終了後も専門委員会は続いたら良い。やってもらいたい。
- ・ 専門委員会は別組織になるが、実際は赴任した教員が担う。一本化して最後までやらないといけない。簡単に立ち上げる懸念がある。

○次回の会議について

次回は会議は、委員の日程を調整した上で、5月に開催する。

閉会